

鹿本高校SSH通信 Vol.37



東京大学先端科学技術研究センター研修

昨年12月26日(木)に東京大学先端科学技術研究センター研修に本校2年2組木村さん、2年5組速見さん、1年2組光永さん、1年5組川口さんが参加しました。その様子をお伝えします。

①先端研内見学

先端科学技術研究センター内では、登録有形文化財の十三号館、風洞見学、食堂などを見学しました。風洞は昔飛行機の飛行検査などに使われており、風の力を有効に活用していたそうです。先端研の歴史とともに詳しい説明を受けました。ちなみに、JAXAと東大先端研は元々ひとつだったそうです。知っていましたか?それぞれの分野で、最高峰の研究機関ですよ。



光野准教授と一緒にパシャリ



風洞はこんなに大スケール

②神崎名誉教授・光野准教授の研究室訪問



工学分野からの研究。様々な分野からのアプローチ。

光野准教授の研究室では、カイコガのメスの性フェロモンに対するオスの反応を利用し、遺伝子組み換えなどをすることで、どのように社会に役立てることができるかを研究開発されていました。実際にカイコガの反応を実験したり、実験をどのような仕組みで行うかの説明を受けました。また、カイコガ以外の昆虫の脳の研究について講義を受けました。自分の好きなことを通して社会に貢献できる方々。かっこよかったです!



最後はカイコガ以外の昆虫の脳についての講義

日本科学未来館見学

未来館はなんと7階建て!日頃の勉強で得た知識をフル活用して、体験や閲覧をしました

③研修へ参加した感想

様々なことを学んで帰ってきました。4人からの感想をご紹介します。

(先端研) 昆虫の脳はその大きさに対して非常に効率的だということを学んだ。(未来館) ただ展示するだけでなく、映画のようにしたり、実際に物を動かしたりと工夫されていて、展示内容もかなり専門的な部分まで触れられていて、飽きずに勉強になった。

(先端研) 日常生活にどうにかかせないかと尽力されている姿がとても印象的でした。(未来館) このままだと未来はどうか、科学の視点から詳しく考えられていて、自分で科学を体験することでより関心を深めることができるような施設だった。

世の中にはまだ活用されていないものごとがたくさんあり、それをどう世の中に活用していくかが重要だと学びました。また、それが研究開発につながっていく、新しいことができる楽しさがあるということも学びました。東大の先生方の生き生きとした表情がかっこいいなと思い、自分の進路実現に向けてさらに意識が高くなりました。

(先端研) 先端研の先生方の様々な研究も見て、様々な研究者の方がいて一つの視点からだけでなく、いくつかの分野を取り入れながらしているからこそ社会に役立てることができるような開発研究ができるんだと思いました。先生方から、「常に考え続けること」、「別の領域を入れ込むことで新しさが生まれていく」と教えていただいたので、これからの自分の研究でも心に留めていきたいです。

